LOGISTICS NIPPON
物流ニッポン
発行/月曜日・木曜日　第3464号
購読料/半か年32,130円(月額5,355円、税込)
2012年(平成24年)
1|9
(月曜日)
URL=http://www.logistics.jp
株式会社 物流ニッポン新聞社
編集発行人　山田　晃
東京本社　東京都千代田区平河町1-7-20　☎03-3221-2345
大阪本社　大阪市天王寺区堂ヶ芝1-3-24　☎06-6779-5655
全国9支局自社ネットワークの物流総合専門紙
札幌 011-261-3155　東京 03-3221-2345　大阪 06-6779-5656
仙台 022-711-2755　新潟 025-283-0322　広島 082-242-2821
さいたま 048-837-3600　名古屋 052-251-8301　福岡 092-474-5888
◎物流ニッポン新聞社 2012 (1969年4月1日第3種郵便物認可)

時節を見極める

中田氏

村田氏

新春座談会 出席者（五十音順）

サンキューコーポレーション 社長　秋山 悟氏
熊谷産業 副社長　合田 裕章氏
中田商事 社長　中田 純一氏
広野運輸 社長　広野 敏樹氏
磐栄運送 社長　村田 裕之氏
〈司会〉川崎陸送 社長　樋口 恵一氏

合田氏

昨年は、東日本大震災やタイの大洪水など、大規模な自然災害に苦しめられた。その上、ギリシャやイタリアでは財政の悪化が進行し、円高も長期化している。こうした多くの外的要因が日本企業の成長を阻んでいる中で、中堅のトラック事業者はどのような成長戦略を打ち出すべきなのだろうか。物流企業が発展・拡大していくためには、業界全体の課題となっている人材の確保・教育をはじめ、営業の強化、IT（情報技術）化の推進、新規事業の立ち上げ、異業種への進出など様々な手法がある。しかし、こうした時期に何を行うことが適切なのか、また、何をしてはいけないのか、しっかりと見極めることは難しい。そこで今回、国内の各地域から有力な中堅トラック企業の経営者を招き、各社の事業の特色や荷主・市場ニーズへの対応方法、人材の育成・活用、今後の事業戦略などについて話し合ってもらった。

設備投資 度胸とスピード

Ⅰ 今期の業績推移

樋口　昨年は東日本大震災が発生し、直接的、間接的を問わず様々な影響を受けました。そういう中で、現在の景気や政治情勢とは関係なく、ことしは何を強みにして、どういった方向に進んでいくのか。また、長期的には、どうやって自社を守り、成長させていくのか、中堅トラック企業のみなさんに成長戦略を伺いたいと思います。今回お集まりいただいたメンバーは、紙類や食品の運送、倉庫業、EC（電子商取引）支援など業種の異なる方々です。そこで今日は、トラックに限らず、物流全般についての考えを伺っていきます。まずは、近況や今期の業績推移、注力事業を始められたきっかけなどを教えてください。

広野　今期は増収減益で推移しています。燃料価格の高騰が減益要因です。ただし、物流元請会社から受注した センターへの配送を昨年から始めており、増収に貢献しています。

樋口　物流元請会社が広野運輸を指名した理由は、何だとお考えですか。

広野　8年ほど前、その元請会社からペットフード配送の案件を受注したこともあり、これまで良好な関係を築いてきたことが大きいと思います。当社は元々、物流元請会社との取引が全体の70%と高く、メーカーとの直取引はありません。ほかにも、病院へのリネン配送を手掛けていたというノウハウが評価されたのだと思います。

村田　増収増益です。工業製品の輸送を手掛けていますが、震災と原発事故とが影響し、昨年3～5月は売上高が落ち込みました。ただ、工場の稼働が再開すると、物量が増加に反転。倉庫事業も、保管需要の高まりから好調に推移しています。さらに10月に対応できたことが大きいと考えています。

樋口　顧客からの後押しというのは。

村田　これまで福島県から関東まで荷物を運んだ際は、重量物を積み込んで帰ってくるのが通例でした。こうした仕事をいただく中で、ニーズがあれば車両も増やしましたし、その時の仕事ぶりが評価されたのだと思います。設備投資にはリスクを伴いますが、お客さまの要望に応えるためには、物流事業者もある程度、度胸を持ってスピーディーに取り組む必要があるのではないでしょうか。

秋山　当社は元々、特積みの集配を行っていました。ただ、業績は好調だったものの、バブル期に深夜までの作業が続いたことで従業員が辞めていき、黒字倒産しそうな状況を迎えました。そこで、業態を一変。人手の必要な運送事業から、少人数で行える物流サービスへと切り替えました。現在は、特積事業から撤退しています。また、特積みで培った積合せ配送のノウハウを生かし、食品の共同配送を手掛けていますが、過渡期と感じており、新たな展開を考えているところです。

樋口　サンキューコーポレーションではトランクルーム事業をされていますが、始められたきっかけは何ですか。

秋山　バブル期に引っ越しの受注会社を運営していましたが、自社で倉庫も保有していたため、建て替え時に顧客の荷物を預かるサービスを始めました。量も増加しコンテナ型保管で対応していましたが、約款との兼ね合いもあり、トランクルーム専用のスペースを新設。東京都八王子市に設けた書籍専門のトランクルームでは、同地域に大学が21校もあることから、新規で毎年3万～7万冊の保管依頼をいただいています。

合田　熊谷産業は、地元の製紙工場からの受注が大半を占め、紙類に特化した物流サービスがメーン事業となっています。最近では、国内全体にペーパーレス化が浸透したことで、全体量は減少傾向をたどっています。そこで、スリッターによる粘着紙の裁断など流通加工にも注力。さらに、多品種・小ロット配送という課題には、別会社を立ち上げて対応しています。

秋山氏

中堅トラック企業の成長戦略を探る

食品の共配、過渡期感じる

樋口氏

苦境は社内改革のチャンス

広野氏

Ⅱ 産業空洞化・従業員教育

樋口　国内では、製造業者の海外流出が懸念されていますが、この対策はどうされていますか。

合田　紙類の輸送保管事業は現在、売上高の7割くらいを占めていますが、近年はラベル、シールといった特殊紙が増え、一般紙の取扱量は減ってきています。従来とは異なる配送方法を求められる一方で、流通加工面では可能性が広がりました。これに注力することで、全体量の減少分をカバーしていきたいと考えています。さらに、並行して、全く違った分野への参入も模索しているところです。

中田　リーマン・ショック後、業績回復のため、社内改革に取り組みました。組織変革やドライバーの資格取得促進など、自分たちにできることからスタート。とくに、ドライバーの給与を時間給制へ変更したことで、人件費の抑制に成功しました。また、これまでは車両1両に対し乗務員は1人でしたが、これを1・15～1・25人に改めたことで、稼働効率が上がり利益も向上。こうした業績改善のための努力は、われわれ経営者にとって必要なことだと思います。何か特別なことではなく、当たり前のことから始めればよいのだと再認識しました。

樋口　そうした取り組みをしたことで、新規の受注獲得に成功。最近では定期案件も増え、今期の業績は増収増益を計上できる見込みです。

樋口　みなさんのお話を伺っていると、リーマン・ショックや震災などで世の中が大きく変化した時、素早く対応のではないでしょうか。

樋口　認証の取得を目標設定に活用するのも、効果がありそうですね。

広野　従業員は、目的を持たないと動けません。そのためには、こうした取り組みを中途半端ではなく、徹底的にやることです。そうすることで、長く勤めてもらえるような職場環境も作り上げられるよう、評価するシステムも設けるつもりです。

樋口　広野さん、中田さんは共に創業者ですが、従業員の仕事ぶりが経営者の要求レベルに達したのは、起業して何年目からでしょうか。

広野　10年目くらいです。Gマークを取得した頃から、社員の意識が変わりました。何社も渡り歩くドライバーが多い中、当社の定着率は高いと認識しています。

中田　リーマン・ショック後です。わたしも本気になって会社を変えようと思いましたし、苦境を迎え全体の意識が一つになったことで、むしろ変革するチャンスと捉えました。

認証取得 目標設定に活用

進めることで、荷主からの評価は変わりましたか。

中田　取引社数が多くスポットの受注が多いのですが、輸送の安全面と対応の早さを評価していただいているようです。昨年1月にプライバシーマーク（Pマーク）を取得したことが業績や業容の拡大につながっているのではないか、と受け取れました。ただし、こうした変化に対応していく中で、従業員をどのように説得し、先導していくかという問題は、とても重要です。次は、人材の教育について伺いたいと思います。

広野　自社の歴史は16年と浅いのですが、この業界に愛着を感じています。一番の要因は、やはり人です。Gマーク（安全性優良事業所認定）やグリーン経営認証、ISO認証などについて一緒に勉強していくと、ドライバーの目的意識が変わります。昔のような一匹狼（おおかみ）タイプは少なく、路上でもマナーがいいですね。一般のドライバーより安全に走行している

【9面に続く】

企業紹介（順不同）

①行政区②創業年③資本金④従業員数⑤車両数⑥主な業務⑦取引先と特色

広野運輸

①札幌市西区②1995年③1700万円④160人⑤139両⑥ドライ食品・雑貨・弁当・リネン・建材の配送、送迎バス⑦エア・ウォーター、センコー、札幌通運、北海道日立物流など

磐栄運送

①福島県いわき市②1959年③8000万円④135人⑤160両⑥運送、倉庫（延べ保管面積8000坪、野積1万5000坪）⑦重厚長大貨物の取り扱いが得意

サンキューコーポレーション

①東京都府中市②1965年③4000万円④200人（臨時雇用含む）⑤50両⑥運送、倉庫・トランクルーム、引っ越し、EC支援⑦センター代行、アウトソーシングなど展開、物流の最適化を支援

熊谷産業

①埼玉県熊谷市②1961年③6000万円④200人⑤70両⑥運送、倉庫、加工業⑦リンテック、国際紙パルプ商事、日本製紙ケミカル、ネットランス／倉庫は紙製品が中心。営業所6か所、得意先は200社

中田商事

①三重県伊賀市②1995年③800万円④75人⑤48両⑥倉庫業（3000平方㍍）、運送業、産業廃棄物収集運搬業⑦ニッチ戦略でオンリーワン目指す／中田社長は国交省未来検討委員会の元委員